

# 病 理 検 査 学

単位数：2単位(45時間)

責 任 者：岸野 沙耶花  
学年・学期：第2学年・前期／後期

## ◆一般目標(GIO)

病理検査学は、大きく組織学的検査と細胞学的検査に分けることができる。

前者では疾病の確定診断に、後者では癌の早期発見に深く関与し、治療方針の決定や治療の効果に影響を与える重要な検査である。

本講座は臨床検査技師として必要な標本作製を正しく行うことができるようにするために、標本作製手順をはじめ、組織や細胞の構造など必要な知識の習得を目的とする。

## ◆到達目標(SBOs)

1. 病理検査の意義を述べることができる。
2. 病理組織標本作製の手順を述べることができる。
3. 切り出しの要点を述べることができる。
4. 固定の目的を述べることができる。
5. 固定の要点と代表的な固定液について組成、使用目的を述べることができる。
6. 脱灰の目的を述べることができる。
7. 脱灰の要点と代表的な脱灰液について特徴、後処理を述べることができる。
8. 包埋法の種類と特徴を述べることができる。
9. パラフィン包埋の操作と注意点を述べることができる。
10. 薄切法に使用するミクロームの種類と目的を述べることができる。
11. パラフィン切片薄切法について原理と注意点を述べることができる。
12. 凍結切片標本作製について目的と手順を述べることができる。
13. 電子顕微鏡標本作製について目的と手順を述べることができる。
14. 免疫組織化学染色について目的、手順をFISH法等の遺伝子関連も含めて述べる  
ことができる。
15. 染色の一般理論(特に染色性)について述べることができる。
16. 染色の種類と目的、染色態度を述べることができる。
17. 細胞診の利点と欠点を述べることができる。
18. 細胞診の標本作製手順を述べることができる。
19. 検体の種類による処理方法を述べることができる。
20. 固定方法の種類と目的、注意点を述べることができる。
21. 染色の種類と目的その意義を述べることができる。
22. 検体採取部位での自然剥離細胞と出現しうる疾患を述べることができる。
23. スクリーニングの目的とその方法、細胞判定区分について述べる  
ことができる。
24. 細胞学的検査における、遺伝子関連・染色体検査について目的、方法を述べる  
ことができる。

◆学習方法

教科書を中心とし、必要に応じてスライド等を用いる。

◆評価方法

定期試験と中間試験(授業内)、レポート、授業態度による総合評価。

◆教科書

臨床検査学講座 『病理学／病理検査学』 松原 修 他著 医歯薬出版(株)  
 月刊メディカルテクノロジー別冊 染色法のすべて 赤尾信吉 他筆 医歯薬出版(株)  
 ひとの組織学 カラーアトラス 梶ヶ谷宏 他著 メディカルサイエンス社

◆参考書

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1 2	病理検査学総論	病理検査の意義	岸野
3 4	組織学的検査 ①	組織標本作製手順 切り出し	〃
5 6	〃 ②	固定法 脱灰法	〃
7 8	〃 ③	包埋法(パラフィン包埋を中心に) 薄切法	〃
9 10	〃 ④	凍結切片標本、電子顕微鏡標本作製法 免疫組織化学染色	〃
11 12	〃 ⑤	染色理論 一般染色(HE染色)	〃
13 14	〃 ⑥	染色について I	〃
15 16	〃 ⑦	染色について II	〃
17 18	〃 ⑧	染色について III	〃
19 20	細胞学的検査 ①	検体の種類と処理方法 細胞診標本作製手順(パパンニコウ染色 他)	〃
21 22	〃 ②	細胞のスクリーニングのポイント 悪性判定基準	〃
23 24	〃 ③	検体種類と細胞の特徴	〃